

平成28年度 リスク評価(一次)評価 I で用いた人健康影響のデータ

(平成28年12月27日)

優先評価 化学物質 の番号	名称	分解性	有害性 クラス	有害性項目ごとの有害性クラス				一般毒性								生殖発生毒性						変異原性						発がん性		備考							
				一般毒性	生殖発生 毒性	変異原性	発がん性	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験期間 によるUF (90日未満6 1年未満2)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	影響の重大性 に係るUF (エキスパート ジャッジ)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験の質 によるUF (1世代 試験は10)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	①Ames試験 (復帰突然 変異試験)	②in vitro ほ乳類染色体 異常試験	③その他 のin vitro 試験	④in vivo 小核試験	⑤その他 のin vivo 試験	備考	発がん性 分類	備考									
3	n-ヘキサン	良分解性	4		4																													EPA:1(2005)		化管法由 来	
5	イソブレン	難分解性	2								2																							産衛学会:2B IARC:2B EU:2 NTP:R		化管法由 来	
6	クロロメタン (別名塩化メチル)	難分解性	2	4							2																			化管法変異原性 クラス1			IARC:3 EPA:D(1986) CBD(1996) EU:3		化管法由 来		
8	クロロホルム	難分解性	2																															産衛学会:2B IARC:2B EPA:B2(1986) L(1999)-NL(1999) EU:3 NTP:R			
9	プロモメタン (別名臭化メチル)	難分解性	2	2							2																							IARC:3 EPA:D(1986)		化管法由 来	
10	クロロエタン	難分解性	2	外							2																							IARC:3 EU:3		化管法由 来	
11	1,2-ジクロロエタン	難分解性	2																															産衛学会:2B IARC:2B EPA:B2(1986) EU:2 NTP:R			
14	1,3-ジクロロプロペン (別名D-D)	難分解性	2	2							2																							産衛学会:2B IARC:2B EPA:B2(1986) K/L(1996) NTP:R		化管法由 来	
15	メチルアミン	難分解性	2								2																								化管法変異原性 クラス1		化管法由 来
16	ジメチルアミン	難分解性	2	2							2																									化管法由 来	
17	テトラメチルアンモニウム=ヒドロキシド	良分解性	2	2			外		5	6	10			6000	0.00083																						
18	ニトロメタン	難分解性	2								2																								産衛学会:2B IARC:2B NTP:R		化管法由 来
20	1,2-エポキシプロパン(別名酸化プロピレン)	良分解性	2	2							2																								産衛学会:2B IARC:2B EPA:B2(1986) EU:2 NTP:R		化管法由 来
21	1,2-エポキシブタン	良分解性	2	3							2																								産衛学会:2B IARC:2B EU:3		化管法由 来

優先評価 化学物質 の番号	名 称	分解性	有害性 クラス	有害性項目ごとの有害性クラス				一般毒性							生殖発生毒性					変異原性					発がん性		備考				
				一般毒性	生殖発生 毒性	変異原性	発がん性	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験期間 によるUF (90日未満6 1年未満2)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	影響の重大性 に係るUF (エキスパート ジャッジ)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験の質 によるUF (1世代 試験は10)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	①Ames試験 (復帰突然 変異試験)	②in vitro ほ乳類染色体 異常試験	③その他 のin vitro 試験	④in vivo 小核試験	⑤その他 のin vivo 試験	備考		発がん性 分類	備考		
22	エピクロロヒドリン	良分解性	2	3		2	2								0.0076	旧二監(化管 法)												産衛学会:2A IARC:2A EPA:B2(1986) EU:2 NTP:R		化管法由 来	
23	エチレングリコールモノメチルエーテル	良分解性	2		3	2																							化管法由 来		
24	2-(1-メチルエトキシ)エタノール	難分解性	2	2	4	外		30	6	10				6000	0.005			125	10								(-)	(-)			
26	アセトアルデヒド	良分解性	2				2	2																			化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:2B EPA:B2(1986) EU:3 NTP:R		化管法由 来	
28	酢酸ビニル	良分解性	2	4		2	2								0.2	旧二監(化管 法)												化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:2B		化管法由 来
31	アクリル酸メチル	良分解性	2				2																				化管法変異原性 クラス1	IARC:3 EPA:D(1986)		化管法由 来	
32	アクリル酸エチル	良分解性	2				2	2																			化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:2B		化管法由 来	
34	アクリルアミド	良分解性	2	3	3	2	2								0.005	旧二監(化管 法)												化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2A IARC:2A EPA:L(2005) EU:2 NTP:R		化管法由 来
35	メタクリル酸	良分解性	2	2											0.00025	旧二監(化管 法)															化管法由 来
36	エチレンジアミン四酢酸	難分解性	2	4			2								0.08	旧二監(化管 法)												化管法変異原性 クラス1			化管法由 来
37	ニトリロ三酢酸	難分解性	2	4			2								0.08	旧二監(化管 法)													IARC:2B NTP:R		化管法由 来
38	アセトニトリル	良分解性	2				2																				化管法変異原性 クラス1	EPA:D(1986)・ CBD(1996)		化管法由 来	
40	チオ尿素	難分解性	2		3	2	2																				化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:3 EU:3 NTP:R		化管法由 来	
43	ヘキサメチレン=ジイソシアネート	良分解性	2	2											0.00004	旧二監(化管 法)													IARC:3		化管法由 来
46	トルエン	良分解性	2		外		2																				化管法変異原性 クラス1	IARC:3 EPA:1(2005)		化管法由 来	
47	スチレン	良分解性	2				2	2																			化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:2B NTP:R		化管法由 来	
48	イソプロベニルベンゼン (別名 α-メチルスチレン)	難分解性	2		4	2	2											200	1	10	1000	0.2	厚生省(既存 点検)					化管法変異原性 クラス1	IARC:2B		化管法由 来

優先評価 化学物質 の番号	名 称	分解性	有害性 クラス	有害性項目ごとの有害性クラス				一般毒性							生殖発生毒性					変異原性					発がん性		備考			
				一般毒性	生殖発生 毒性	変異原性	発がん性	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験期間 によるUF (90日未満6 1年未満2)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	影響の重大性 に係るUF (エキスパート ジャッジ)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験の質 によるUF (1世代 試験は10)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	①Ames試験 (復帰突然 変異試験)	②in vitro ほ乳類染色体 異常試験	③その他 のin vitro 試験	④in vivo 小核試験	⑤その他 のin vivo 試験	備考		発がん性 分類	備考	
50	エチルベンゼン	良分解性	2				2																				産衛学会:2B IARC:2B EPA:D(1986)		化管法由 来	
51	ベンジル=クロリド (別名塩化ベンジル)	良分解性	2			2	2																		化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2A IARC:2A EPA:B2(1986) EU:2		化管法由 来		
52	o-ジクロロベンゼン	難分解性	2	4		2									0.24	旧二監(化管 法)										化管法変異原性 クラス1	IARC:3 EPA:D(1986)		化管法由 来	
53	p-ジクロロベンゼン	難分解性	2	3	4	2	2								0.03	旧二監(化管 法)	250	1	10	1000	0.25	環境省:化学 物質の環境リ スク評価				化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:2B EU:3 NTP:R		化管法由 来	
55	m-フェニレンジアミン	難分解性	2	2											0.0004	旧二監(化管 法)											IARC:3		化管法由 来	
56	o-フェニレンジアミン	難分解性	2	2		2	2								0.0004	旧二監(化管 法)										化管法変異原性 クラス1	EU:3		化管法由 来	
58	o-クロロアニリン	良分解性	2			2																				化管法変異原性 クラス1			化管法由 来	
59	ニトロベンゼン	良分解性	2	3	3	外	2								0.02	旧二監(化管 法)											産衛学会:2B IARC:2B EPA:L(2005) EU:3 NTP:R		化管法由 来	
60	p-クロロニトロベンゼン	良分解性	2	2		2	2								0.0026	旧二監(化管 法)										化管法変異原性 クラス1	IARC:3 EU:3		化管法由 来	
62	フェノール	良分解性	2			2																				化管法変異原性 クラス1	IARC:3 EPA:D(1986)・ 1(1999)		化管法由 来	
65	ピロカテコール (別名カテコール)	良分解性	2			2	2																			化管法変異原性 クラス1	産衛学会:2B IARC:2B		化管法由 来	
66	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	良分解性	2	2	3		2								0.0024	旧二監(化管 法)											産衛学会:2B IARC:2B EPA:B2(1986) NTP:R		化管法由 来	
67	テレフタル酸ジメチル	良分解性	2			2																				化管法変異原性 クラス1			化管法由 来	
68	テレフタル酸	良分解性	2	2											0.000073	旧二監(化管 法)														化管法由 来
69	1, 2, 4-ベンゼントリカルボン酸1, 2-無水物	良分解性	2	2											0.00016	旧二監(化管 法)														化管法由 来
70	オクタデシルアミン(N-B)トリフェニルボラン	難分解性	2	2		外	3	6		10	6000	0.0005																		化管法由 来
74	メチレンビス(4, 1-フェニレン)＝ジイソシアネート	難分解性	2	2		4	2								0.000031	旧二監(化管 法)												IARC:3 EPA:D(1986)・ CBD(1996) EU:3		化管法由 来

優先評価 化学物質 の番号	名 称	分解性	有害性 クラス	有害性項目ごとの有害性クラス				一般毒性						生殖発生毒性						変異原性					発がん性		備考					
				一般毒性	生殖発生 毒性	変異原性	発がん性	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験期間 によるUF (90日未満6 1年未満2)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	影響の重大性 に係るUF (エキスパート ジャッジ)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験の質 によるUF (1世代 試験は10)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	①Ames試験 (復帰突然 変異試験)	②in vitro ほ乳類染色体 異常試験	③その他 のin vitro 試験	④in vivo 小核試験	⑤その他 のin vivo 試験	備考		発がん性 分類	備考			
76	ナフタレン	難分解性	2	3			2								0.037	旧二監(化管 法)												IARC:2B EPA:C(1986)・ CBD(1986) EU:3 NTP:R		化管法由 来		
78	3,3'-ジクロロベンジジン	難分解性	2			2	2																				産衛学会:2B IARC:2B EPA:B2(1986) EU:2 NTP:R					
79	ビシクロ[2.2.2.1]ヘプタン-2,5(又は2,6)-ジイル=ジシアニドの混合物	難分解性	2	2		外		1	6	10	10	60000	0.000016																			
80	1,4-ジオキサン	難分解性	2																								産衛学会:2B IARC:2B EPA:L(2005) EU:3 NTP:R					
81	モルホリン	難分解性	2	3		2									0.0085	旧二監(化管 法)										化管法変異原性 クラス1	IARC:3		化管法由 来			
82	ε-カプロラクタム	良分解性	2			2	外																			化管法変異原性 クラス1	IARC:4		化管法由 来			
83	ビリジーン-トリフェニルボラン(1/1)	難分解性	2	2		外		1	6					600	0.0017																	
84	ビス(2-スルフィドビリジーン-1-オラト)銅	難分解性	2	2		外		2.5	6					600	0.0041																	
85	ジカリウム=ピペラジン-1,4-ビス(カルボジチオアールト)*1	難分解性	2	3	2	2									0.012	ACGIH(2009 年版)TLV- TWA 1ppmよ り換算	25	10	10	10000	0.0025								化管法変異原性 クラス1			
87	4,4'-イソプロピリデンジフェノールと1-クロロ-2,3-エポキシプロパンの重縮合物 (別名ビスフェノールA型エポキシ樹脂) (液状のものに限る。)	難分解性	2																								化管法変異原性 クラス1	IARC:3		化管法由 来		
90	メタノール	良分解性	2	2		外		2		10				1000	0.002	HPV																
91	ジエタノールアミン	良分解性	2	2		外	2	0.4	2					200	0.002	HPV														ACGIH:A3 IARC:2B		
92	過酢酸	良分解性	2	2		外		0.75	2					200	0.0038	HPV																
93	無水酢酸	良分解性	2	2		外		0.56	2					200	0.0028	HPV																
94	アクリル酸	良分解性	3	3		外		4.5	2					200	0.023	HPV																
95	クロロ酢酸ナトリウム	良分解性	2	2				15	2	10	10	20000	0.00075																			
97	ヒドロキシルアミン	難分解性 (デフォルト)	2	2																								EU:3				
99	N,N-ジメチルプロパン-1,3-ジイルジアミン	難分解性 (デフォルト)	3	3		外		50	6					600	0.083	SIDS																
102	プロパン-2-オール (イソプロピルアルコール)	良分解性	4	4		外		33.2	2					200	0.17	ACGIH																

優先評価 化学物質 の番号	名 称	分解性	有害性 クラス	有害性項目ごとの有害性クラス				一般毒性							生殖発生毒性						変異原性					発がん性		備考									
				一般毒性	生殖発生 毒性	変異原性	発がん性	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験期間 によるUF (90日未満6 1年未満2)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	影響の重大性 に係るUF (エキスパート ジャッジ)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験の質 によるUF (1世代 試験は10)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	①Ames試験 (復帰突然 変異試験)	②in vitro ほ乳類染色体 異常試験	③その他 のin vitro 試験	④in vivo 小核試験	⑤その他 のin vivo 試験	備考	発がん性 分類		備考								
103	1-オクタノール	良分解性	2			2																											化管法由来				
105	エチレングリコール	良分解性	3	3		外		1.08	2					200	0.0054	Patty										(-)	(-)	MLA(-)	(-)	DLRL(-)	SIDS, Patty, NTP	ACGIH: A4					
106	プロパン-1, 2-ジオール	良分解性	3	3		外		46	1	10				1000	0.046	PRED										(-)	(±)	酵母(+), 小核(-)	(-)	Drosophil a(-), マ ウス優性 致死(-)	SIDS, JECFA, NTP, PRED, Patty						
107	2-アミノエタノール	良分解性	2	2		外		8.91	6	10				6000	0.0015	環境省:化学 物質の環境リ スク評価										(-)	(-)	遺伝子変 換(-), SCE(-), 形質転換 (-)	(-)		NITE,環境省, DFG, Patty, NTP						
108	トリエタノールアミン	難分解性	2	2		外		2.65	6	1				600	0.0044	SIDS										(-)	(-)		(-)	DLRL(-)	SIDS, Patty, NTP, Dat	IARC: 3					
109	2-ブトキシエタノール	良分解性	2	2		外	2	8.891	2	10				2000	0.0044	環境省:化学 物質の環境リ スク評価										(±)	(-)	UDS(±), SCE(±), ほ乳類細 胞変異原 (-)	(-) (±)	DNA付加 体(-), fiv/n TG マウス(-)	SIDS, IPCS, IRIS, ACGIH, NTP, CEPA, NICNAS 一部に陽性だが、 大勢は陰性。	IARC: 3 EPA(2005):NL ACGIH: A3					
110	2-(2-エトキシエトキシ)エタノール	良分解性 (類推審 議)	3	3		外		11.93	6	1				600	0.02	Patty's Toxicology (5th ed.)										(-) (±)			(-)		SIDS, NTP JECFA, Patty 一部ambiguousは あるが、大勢は陰 性						
111	イソブチルアルデヒド	良分解性	2			2																												化管法由来			
112	グリオキサール	良分解性	2			2																													化管法由来		
113	アクロレイン	難分解性	2	2			2								0.00092	旧二監(化管 法)																				化管法由来	
114	アセトン	良分解性	4	4		外		100	2	1				200	0.5	ATSDR											(-)	(-) 一部(+)	MLA(-)	(-)		ATSDR, SIDS, IRIS, EHC, ACGIH 一部CA(+)+だが大 勢は(-)+かつvivo小 核(-)	ACGIH: A4 EPA(1999): 1				
115	メチルエチルケトン	良分解性 (類推審 議)	4	4		外		67.7	6	1				600	0.11												(-)	(-)	MLA(-), UDS(-), 形態変換 (-), 酵母 (+)	(-)		SIDS, ECETOC, EHC, ATSDR	EPA(1999): 1				
116	メチルイソブチルケトン	良分解性	2	外		外	2	19.9	2	1				200	0.099	ACGIH, DFG											(-)		MLA(±)	(-)		ACGIH, Patty, EHC, MOE, DFG, ECETOC	IARC: 2B EPA(1999): 1 ACGIH: A3				
117	ギ酸	良分解性	3	3		外		4.06	2	1				200	0.02	DFG											(±)	(±)			Drosophil a, SLRL(+)	SIDS, JECFA, NTP, Patty, DFG SIDSでは、vivoの 陽性はphによる 影響としている。 Patty では Ames(+)+について はphの影響として いる					
118	2-ブトキシエチル=アセタート	難分解性 (デフォル ト)	2				2																												ACGIH: A3		
119	クロロ酢酸	良分解性	2	3		2									0.008	旧二監(化管 法)																					化管法由来
122	硫酸ジメチル	良分解性 (類推審 議)	2			2	2																			(+)	(+)				優性致死 (±), Drosophil a SLRL(+), 染色体異 常(+), マ ウス ポット(+)	IPCS, ECBリスク, SIDS, DFG	IARC: 2A EPA(1986): B2 NTP: R ACGIH: A3 産衛学会: 2A EU: 2				
124	1-ブタノール	良分解性 (類推審 議)	2	2		外		0.0119	2	1				200	0.00006	IPCS											(-)		SCE(±)	(-)		SIDS, IPCS, ACGIH, patty, NTP	EPA(1986): D				

優先評価 化学物質 の番号	名 称	分解性	有害性 クラス	有害性項目ごとの有害性クラス				一般毒性							生殖発生毒性							変異原性					発がん性		備考												
				一般毒性	生殖発生 毒性	変異原性	発がん性	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験期間 によるUF (90日未満6 1年未満2)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	影響の重大性 に係るUF (エキスパート ジャッジ)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験の質 によるUF (1世代 試験は10)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	①Ames試験 (復帰突然 変異試験)	②in vitro ほ乳類染色体 異常試験	③その他 のin vitro 試験	④in vivo 小核試験	⑤その他 のin vivo 試験	備考	発がん性 分類	備考													
125	キシレン	良分解性	4	4		外		81	6	1			600	0.14																						EHC, NTP, ECETOC	IARC:3 ACGIH:A4 EPA(1999):1				
126	クメン	良分解性	2																																	IARC:2B EPA(1986):D CBD(1996)					
129	1,3-ジイソシアナト(メチル)ベンゼン	難分解性 (デフォルト)	2	2	2	2	2	0.11	10	1			1000	0.00011	化管法		0.019		1	1	100	0.00019	NITE初期リス ク・有害性評 価													化管法変異原性 クラス1	IARC:2B NTP:R EU:3		化管法由 来		
131	シクロヘキサノン	良分解性	4	4		4	2	50.4	6	1			600	0.084	SIDS																						SIDS, ACGIH, NTO, DFG	IARC:3 ACGIH:A3			
132	3,5,5-トリメチルシクロヘキサ-2-エン-1-オン	難分解性	2																																		EPA(1986):C ACGIH:A3 EU:3				
135	テトラヒドロフラン	良分解性	2																																		EPA(2005):S ACGIH:A3				
136	N-メチル-2-ピロリドン	良分解性		3		外		13.3	6	1			600	0.022	SIDS																							マウス優 性致死(-)			
140	アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム(アルキルは炭素 数が10から14までの直鎖アルカンの基に限る。)	難分解性 (デフォルト)	4	4				40	2				200	0.2	PRED																							NTP, PRED PRED]にvivo, vitro で変異原なしとの 記載。The toxicological data show that alkylbenzene sulfonates were not genotoxic in vitro or in vivo.)			
143	炭化ケイ素	難分解性 (デフォルト)	2																																			ACGIH A2			
144	二塩化ニッケル(II)	難分解性 (デフォルト)	1																																				ACGIH A4 EU 1		
145	三酸化クロム(VI)	難分解性 (デフォルト)	1																																				産衛 1 EU 1		
146	ビス(スルファミン酸)ニッケル(II)	難分解性 (デフォルト)	1																																					ACGIH A4 EU 1	
147	二塩化酸化ジルコニウム	難分解性	2																																					化管法変異原性 クラス1	
148	硫酸ニッケル(II)	難分解性 (デフォルト)	1																																					EU 1 IARC1 ACGIH A4	

優先評価 化学物質 の番号	名 称	分解性	有害性 クラス	有害性項目ごとの有害性クラス				一般毒性							生殖発生毒性						変異原性					発がん性		備考					
				一般毒性	生殖発生 毒性	変異原性	発がん性	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験期間 によるUF (90日未満6 1年未満2)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	影響の重大性 に係るUF (エキスパート ジャッジ)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	NO(A)EL等 [mg/kg/day]	試験の質 によるUF (1世代 試験は10)	LO(A)EL採用 によるUF (NO(A)ELの 場合は1)	UF 合計	有害性評価値 (D値) [mg/kg/day]	備考	①Ames試験 (復帰突然 変異試験)	②in vitro ほ乳類染色体 異常試験	③その他 のin vitro 試験	④in vivo 小核試験	⑤その他 のin vivo 試験	備考	発がん性 分類		備考				
149	3-クロロプロペン(別名塩化アリル)	良分解性	2	3			2								0.013	旧二監(化管 法)														IARC 3 EPA C(1986) EU 3			
150	2-イソプロキシエタノール	難分解性	2	2	4	外		15	6	10			6000	0.0025	厚労省(既存 点検)		150	10													厚労省(既存 点検)		
152	2, 2', 2''-ニトロロ三酢酸のナトリウム塩	難分解性 (デフォルト)	2																												IARC 2B		
153	N-[3-(ジメチルアミノ)プロピル]ステアラמיד	難分解性 (デフォルト)	3	3	3	外		50	6	10			6000	0.0083	厚労省(既存 点検)		50	10														厚労省(既存 点検)	
155	p-トルイジン	難分解性	2	3											0.035	旧二監(化管 法)																EU 3	
156	クレゾール	良分解性	2		2	外											30	10	10	10000	0.003	NITE初期リス ク(m-体)		(-)	(+)	SCE(+) UDS(-)	(-)	SLDL(-), DL(-) SCE(-)	NITE初期リス ク			ACGIH A4	
161	アクリル酸重合物のナトリウム塩	難分解性 (デフォルト)	3	3		外		0.05mg/m3 (MAK value)							0.02	DFG																DFG	
162	コールタール	難分解性 (デフォルト)	1																													IARC 1 EPA A(1986) NTP K 産衛 1 EU 1	
163	コールタールピッチ	難分解性 (デフォルト)	1																													IARC 1 ACGIH A1 産衛 1 EU 2	
173	N, N-ビス(2-ヒドロキシエチル)アルカンアミド(C=8, 10, 12, 14, 16, 18, 直鎖型)、(Z)-N, N-ビス(2-ヒドロキシエチル)オクタデカ-9-エンアミド又は(9Z, 12Z)-N, N-ビス(2-ヒドロキシエチル)オクタデカ-9, 12-ジエンアミド	難分解性 (デフォルト)																															IARC 1 ACGIH A1 産衛 1 EU 2

※1 変化物の二酸化炭素の有害性データが優先評価化学物質の指定根拠となっていることから、二酸化炭素の有害性情報を用いて評価1を実施している。

※2 事業者からの有害性情報の提出により、変異原性については実質的に懸念がないことが示されている。

※3 下線部については、事業者からの情報提供等を踏まえ、新たな有害性情報を用いて評価1を実施している。